

みなぎの通信



県立吉川高等学校 学校だより
令和5年度 第15号
2023年10月4日(水) 発行
【シュウメイギク】

「主役である生徒が輝いている様子を見ていただくこと」が「50年の歴史に敬意を表すること」である。そう考え、準備を進めてきた創立50周年記念式典が無事終わりました。事前のロゴマークやキャラクターの考案、ポスター制作、リーフレット案作成、記念菓子レシピ考案、動画制作、生徒代表よろこびのことはに盛り込む内容の話し合い、書道メッセージしたため、当日の受付・接待、和太鼓演奏、司会、ピアノ伴奏等、実に多くの生徒が主体的にかかわってくれました。こんなにうれしいことはありません。2号にわたり、生徒の活躍等を記録しておきます。今号は、和太鼓に挑戦した「男女10人夏物語」です。

26年度末に閉校の吉川高校

創立50周年式典 太鼓で最後飾る



吉川高校創立50周年式典での和太鼓演奏に向け、練習に精を出す生徒たち＝いずれも吉川総合公園体育館

有馬高校吉川分校を前身とする同校は、1974(昭和49)年に開校した。同市吉川町奥谷出身の書家・上田桑鳩を顕彰する「みなぎの書道展」は同校書道部が発祥。25年度に三木北、三木東と統合し、校舎は三木東を利用する。それに伴い、吉川高校は26年度末に閉校する。

生徒有志10人夏練習の成果、30日披露

創立50周年を迎える吉川高校(三木市吉川町渡瀬)の記念式典が30日であり、生徒有志10人が和太鼓演奏を披露する。2025年度に市内2高校との統合が決まっている同校にとっては、最後の創立記念式典。生徒たちは「母校がなくなるのは寂しいけれど、自分たちの演奏で最後の節目を飾りたい」と練習を重ねる。(小西隆久)



本番に向け意気込む生徒たち

錦将之さん(17)、関大翔さん(16)、岡大翔さん(16)、鴨崎拓海さん(17)、藤原恵さん(17)、仲谷陸さん(16)が手を挙げた。10人は、夏休みに入った7月21日から毎週1回、約2時間の練習を続けてきた。指導は地元吉川錦太鼓のメンバーが引き受け、ばちの握り方や構え方から手取り足取りで指導。同太鼓の曾我部副代表は「学年も異なる10人が、今ではまるで何年も同じクラブで活動してきたような一体感がある」と評価する。取り組む曲は、同グループの練習曲「楽」。リズムミカルなフレーズが特徴で、大太鼓、長胴太鼓、縮太鼓でそれぞれ見せ場となるソロパートもある。練習は吉川総合公園体育館(同市吉川町西奥)で行う。閉め切った空間でばちを30分も振り続けると、10人は汗びっしょりになる。それでも「もっと腕を伸ばして」「強弱をもっときっちり」などの指示を受けながら、何度も繰り返し演奏する。「和太鼓をたたくのは初めて。リズムにのっていい音が出せると気持ちいい」と錦さん。リーダーの松本さんは「みんな一つ一つの体になった感じで、法被に描かれた草のように天にも昇るような演奏にしたい」と表情を引き締める。式典ではこのほか、生徒が作製した動画や、書道部が手がけた縦6尺、横3尺の巨大な書を披露する。

神戸新聞 2023年(令和5年)9月26日付け

記事の転載にあたっては、神戸新聞社より著作物使用の許諾を得ています。

※訂正：記事の最後、書道部作品の大きさは、正しくは、縦3m、横6mです。

よ 喜び か 感動 わ 分かち合って 50年!
高 兵庫県立 吉川高等学校

〒673-1129
三木市吉川町渡瀬300-12
Tel 0794-73-0068

